

助産師即戦力へ30人講習

岡大育成プログラム始まる

助産師のスキルアップを支援するとともに、産科の人材不足を補おうと、岡山大が参加を呼びかけた「即戦力育成プログラム」が24日スタート。初回は現役の助産師のほか、子育てなど

で離職、復職を目指す資格保持者のほか、学生ら計約30人が参加し、胎児の状態を知るための超音波検査の方法について、講義や実技があった。全国から92人が応募。産



超音波検査の方法を指導する中塚教授(手前)と受講生(岡山大)

科医の少ない地域や年代などを考慮し、22人を選抜した。1年間で周産期全般のほか、流産や死産、不妊、虐待問題などについても学ぶ。

この日は担当の中塚幹也教授から、助産師の教育課程であまり扱う機会のない超音波測定の仕方や、妊婦とのコミュニケーションの取り方などを学んだ後、実際に器具を使用。受講生がモデルになるなどして、器具の腹部への当て方を確認していた。

札幌市のクリニックに勤める助産師上野美枝子さん(54)は「(インターネット)による遠隔学習の) eラーニングで学べ、遠くでも参加できる。最先端の技術に触れることが少ないので、勉強して応用したい」と話していた。